

## 2. 論文発表等の実績

	雑誌名	発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
73	耳鼻咽喉科臨床	2009.2	耳下腺salivary duct carcinomaの3例と本邦における臨床的検討	大高隆輝	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
74	耳鼻咽喉科臨床	2009.3	口腔咽頭に生じる潰瘍性病変に対する保存的治療とペーチェット病に対する扁桃摘出術の有効性	高原幹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
75	耳鼻咽喉科臨床	2009.3	頸部炎症性筋線維芽細胞性腫瘍例	上田征吾	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
76	ENTONI	2009.3	【耳鼻咽喉科ウイルス感染症】EBウイルス感染と頭頸部腫瘍	高原幹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
77	口腔・咽頭科	2009.3	扁桃シンポジウム 扁桃病巣皮膚疾患に対する扁桃摘出術の効果と限界 尋常性乾癬、アナフィラクトイド紫斑病、ペーチェット病等の扁桃病巣皮膚疾患における扁桃摘出術の有効性	高原幹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
78	J Assist Reprod Genet	2008.5	Isolation of the human ePAB and ePABP2 cDNAs and analysis of the expression patterns	宮本敏伸	産科婦人科
79	Cancer Res	2008.7	Frequent inactivation of a putative tumor suppressor, angiopoietin-like protein 2 in ovarian cancer.	千石一雄	産科婦人科
80	J Assist Reprod Genet	2008.11	Two single nucleotide polymorphisms in PRDM9 (MEISETZ) gene may be a genetic risk factor for Japanese patients with azoospermia by meiotic arrest	宮本敏伸	産科婦人科
81	日産婦内視鏡学会誌	2008.12	当院における「組み立て式吊り上げ法」を用いた腹腔鏡下子宮筋腫核出術後の後方視的研究	堀川道晴	産科婦人科
82	北海道産婦人科学会誌	2009.3	ヒト無精子症とその要因	宮本敏伸	産科婦人科
83	北海道産婦人科学会誌	2009.3	高齢者の腹腔鏡手術	西脇邦彦	産科婦人科
84	小児の脳神経	2008.4	皮質形成異常の電気生理学的・病理組織学的検討 —ラット実験モデルおよび臨床例の検討—	程塚 明	脳神経外科
85	脳神経外科	2008.5	限局性皮質形成異常のてんかん原性に関する病態生理学的研究 (総説)	程塚 明	脳神経外科
86	癌と化学療法	2008.6	抗癌剤髄腔内投与	程塚 明	脳神経外科
87	脳卒中の外科	2008.6	内頸動脈閉塞を伴う巨大脳底動脈先端部近傍動脈瘤の外科治療	佐藤正夫	脳神経外科
88	Journal of Brain Science	2008.10	Basal ganglia, thalamus, mesencephalic reticular formation and experimental limbic seizures	Hodozuka A	脳神経外科
89	日本口腔外科学会雑誌	2008.4	下顎間接突起部に発症したLangerhans' cell histiocytomaの1例	吉田将亜	歯科口腔外科
90	日本輸血細胞治療学会誌	2009.1	旭川医科大学病院における輸血前・輸血後感染症気怨嗟の実施状況	紀野修一	臨床検査・輸血部

小計18件

## 2. 論文発表等の実績

	雑誌名	発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
91	Analytical Biochemistry	2009.3	Single nucleotide polymorphism genotyping by mini-primer allelespecific amplification with universal reporter primers for identification of degraded DNA	松原和夫	薬剤部
92	Progress in Medicine	2008.7	慢性肝炎患者におけるグリチルリチン製剤投与による臨床効果の比較	松原和夫	薬剤部
93	医療薬学	2008.5	処方オーダーリングシステムおよびTDMオーダーリングシステムと連動した抗MRSA薬使用届け出システムは適正使用を推進する	山田武宏	薬剤部
94	ANAESTHESIA	2008.4	Tips for intubation with the Pentax-AWS (R) Rigid Indirect Laryngoscope in morbidly obese patients	鈴木昭広	救急部
95	JOURNAL OF ANESTHESIA	2008.5	Pentax-AWS® (Airway scope) and Airtraq® : Big difference between two similar devices	鈴木昭広	救急部
96	ANAESTHESIA	2008.6	The Pentax-AWS (R) rigid indirect video laryngoscope: clinical assessment of performance in 320 cases	鈴木昭広	救急部
97	ANESTHESIA AND ANALGESIA	2008.7	Unexpected internal jugular vein obstruction revealed by ultrasound surface scan before central venous catheter insertion	鈴木昭広	救急部
98	ACTA ANAESTHESIOLOGICA SCANDINAVICA	2008.7	High dose of dexmedetomidine was useful for general anesthesia and post-operative analgesia in a patient with postpolio syndrome	国沢卓之	手術部
99	JOURNAL OF CARDIOTHORACIC AND VASCULAR ANESTHESIA	2008.10	Mild Nonpara-/Non transvalvular leakage of a stented porcine valve implanted in the mitral position decreased after the administration of protamine and disappeared after surgery	国沢卓之	手術部
100	JOURNAL OF ANESTHESIA	2009.2	Pentax-AWS airway Scope as an alternative for awake flexible fiberoptic intubation of a morbidly obese patient in the semi-sitting position	鈴木昭広	救急部
101	別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ	2008.4	循環器症候群IV 僧帽弁穿孔.	郷一知	救急部
102	General Thoracic and Cardiovascular	2008.6	Staged repair for a chronic dissecting thoracic aortic aneurysm with no transfusion in a Jehovah's Witness Patient.	角浜孝行	救急部
103	ICUとCCU	2008	エアウェイスコープを用いた安全な気管チューブ交換	鈴木昭広	救急部
104	麻酔	2008	麻酔科研修への搾樽のポイントオブジョブトレーニングの有用性	藤田 智	救急部
105	救急医学	2008.10	エアウェイスコープを用いて気道確保を行った顔面・頭部外傷の1症例	鈴木昭広	救急部
106	Progress in medicine	2008.7	食道癌術後の心房細動に低用量塩酸ランジオロールが有効であった肥大型心筋症の1例	岡田基	集中治療部
107	Circulation	2008.10	Prostacyclin Relieves Periphera Ischemia through Enhancement of Critical Functions of Endothelial Progenitor Cells	岡田基	集中治療部
108	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2008.4	口内法による唾石摘出術	林 達哉	手術部/耳鼻科

小計18件

## 2. 論文発表等の実績

	雑誌名	発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
109	日本手術医学会誌	2008.5	手術医療の実践ガイドライン 第11章 手術部建設・設備	平田 哲	手術部
110	ENT/er	2008.5	反復性中耳炎	林 達哉	手術部/耳鼻科
111	日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌	2008.5	ペニシリンは耐性菌を増やすのか、減らすのか	林 達哉	手術部/耳鼻科
112	Acta Anaesthesiol Scand	2008.7	High dose of dexmedetomidine was useful for general anesthesia and post-operative analgesia in a patient with postpolio syndrome.	国沢 卓之	手術部
113	JOHNS	2008.8	アデノイド増殖症、慢性扁桃炎 -アデノイド切除術, 口蓋扁桃摘出術-	林 達哉	手術部/耳鼻科
114	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2008.10	小児急性中耳炎からみた抗菌薬の適正使用と課題	林 達哉	手術部/耳鼻科
115	J Cardiothorac Vasc Anesth	2008.10	Mild nonpara-/nontransvalvular leakage of a stented porcine valve implanted in the mitral position decreased after the administration of protamine and disappeared after surgery.	国沢 卓之	手術部
116	小児内科40(増刊)	2008.12	副鼻腔炎	林 達哉	手術部/耳鼻科
117	日本臨床麻酔学会誌	2009.1	安全で確実な中心静脈カテーテル留置 コツと落とし穴	国沢 卓之	手術部
118	Clinical Engineering	2009.2	手術部における医療機器の保守管理 病院経営からみた医療機器保守管理	平田 哲	手術部
119	日本手術医学会誌	2009.2	効率的な鋼製小物, 医療材料の管理運用システム日本手術医学会誌	平田 哲	手術部
120	Int J Oncol	2008.5	Administration of VEGF receptor tyrosine kinase inhibitor increases VEGF production causing angiogenesis in human small-cell lung cancer xenografts.	大崎 能伸	呼吸器センター
121	Int J Antimicrob Ag	2008.11	Recovery of susceptibility to penicillin G in clinical isolates of Streptococcus pneumoniae despite increased accumulation of pbp gene alterations.	大崎 能伸	呼吸器センター
122	Lancet Oncol	2008.11	Vinorelbine plus gemcitabine followed by docetaxel versus carboplatin plus paclitaxel in patients with advanced non-small-cell lung cancer: a randomized, open-label, phase III study.	大崎 能伸	呼吸器センター
123	Respirology	2009.3	Bronchoscopy in Japan: A survey by the Japan Society for Respiratory Endoscopy in 2006.	大崎 能伸	呼吸器センター
124	Oncology Reports	2009.3	High incidence of chromosomal abnormalities at 1p36 and 9p21 in early-stage central type squamous cell carcinoma and squamous dysplasia of bronchus detected by autofluorescence bronchoscopy.	大崎 能伸	呼吸器センター
125	化学療法の領域	2008.4	抗菌薬選択のポイントII. 起炎菌別に考えること3. 肺炎球菌.	大崎 能伸	呼吸器センター
126	日医雑誌	2008.6	特集 抗菌薬の使用と耐性菌への対応. ペニシリン耐性肺炎球菌.	大崎 能伸	呼吸器センター

小計18件

## 2. 論文発表等の実績

	雑誌名	発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
127	日本呼吸器学会雑誌	2009.2	慢性壊死性アスペルギルス症臨床診断例におけるガラクトマンナン抗原および $\beta$ -Dグカン値の検討.	大崎 能伸	呼吸器センター
128	別冊日本臨床新領域別症候群シリーズ	2009.3	萎縮性気管支炎. 呼吸器症候群(第2版)III.	大崎 能伸	呼吸器センター
129	肺癌	2009.3	後期高齢者進行非小細胞肺癌に対するパクリタキセルとカルボプラチン併用化学療法の第I相試験.	奥村 俊介	呼吸器センター

小計3件

合計129件

## (様式第 12)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 松野丈夫
管理担当者氏名	総務課長 小山幸弘、会計課長 今田敏文、経営企画課長 高見澤昭彦 医療支援課長 井上義彦、薬剤部長 松原和夫

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病院事務部 医療支援課 経営企画課 薬剤部	コンピューターによる集中管理を行っている。 カルテ等病歴資料、外来・入院別に1患者1ファイル方式とし、エックス線写真は分冊になっているが1患者単位での管理を行っている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部総務課	/
	高度の医療の提供の実績	病院事務部 経営企画課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務部総務課	
	高度の医療の研修の実績	総務部総務課	
	閲覧実績	病院事務部 経営企画課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	病院事務部 経営企画課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院事務部 経営企画課	
確規 保則 の第 9 条 の 2 3 及び 第 1 条 の 1 1 各号 に掲 げる 体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務部総務課	/
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務部総務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	総務部総務課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院事務部 医療支援課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務部総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務部総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	総務部会計課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部長 菅原豊彦
閲覧担当者氏名	経営企画課長 高見澤昭彦
閲覧の求めに応じる場所	病院会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	67.1%	算定期間	平20年4月1日～平成21年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		9,241人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		5,257人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,203人
	D: 初診の患者の数		18,140人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 所属職員： 専任 (2) 名、 兼任 (9) 名</li><li>・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>(1) インシデントレポート等に関する調査・分析</li><li>(2) 医療の質の向上、その他安全対策に関する事項</li><li>(3) 医療事故防止のための改善策の策定・実施及び周知</li><li>(4) 医療調査委員会開催の判断</li><li>(5) 医療の安全性に係る教育及び研修</li><li>(6) 医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例の職員への周知</li><li>(7) 医療事故防止マニュアルの見直し</li></ul></li></ul>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 安全管理の基本理念</li><li>(2) 安全管理組織体制の整備</li><li>(3) 部門の長の管理責任の明確化</li><li>(4) 診療マニュアルの活用</li><li>(5) インシデントと医療事故の用語の定義</li><li>(6) インシデント報告体制</li><li>(7) インシデント報告体制時間内</li><li>(8) 時間外緊急連絡網体制</li><li>(9) 本院における医療安全管理体制</li><li>(10) 医療事故等発生時の対応</li><li>(11) 医療関連死・CPA-0A 症例の剖検に関する指針に関して</li><li>(12) 医療相談窓口の設置</li></ul></li></ul>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回



・活動の主な内容：

- (1) 医療事故防止対策の検討及び推進
- (2) 医療事故防止の啓発活動（講演会等の企画立案を含む）
- (3) インシデント報告の調査及び分析を行い、その改善策を講じ、改善事項・周知事項の周知徹底を図る。
- (4) 各部署における医療安全管理状況の点検及びマニュアルの見直し
- (5) 医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例の職員への周知
- (6) インシデントが発生した場合、医療事故か否かを判定し、医療事故と判定した場合は速やかに事故原因を調査究明し、再発防止策を策定する。

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年20回

・研修の主な内容：（平成20年度実績）

看護部初任者研修、医療安全ポケットマニュアルの説明、各部門における安全への取り組み、ME機器セミナー（2回）、一次救命救急処置・AED講習会（3回）、特別講演会、第1回事例検討会、医療安全対策実状報告会、並列交換講習会、人工呼吸器準備等に関する学習会、エコーガイド下穿刺手技トレーニング、眼科救急勉強会、部署リスクマネジャーの教育（重大事例発生時の記者会見ロールプレイング法）、各部門での安全の取り組み報告会&ポスターセッション（2日間）、外来救急シュミレーション、第2回事例検討会、輸血実施手順講習会、医師・事務職員中途採用者の教育、看護師中途採用者の教育、e-ラーニングで学ぶ医療安全。

⑧医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・医療機関内における事故報告等の整備 （有・無）

・その他の改善のための方策の主な内容

- (1) インシデント事例をリスクマネジャー連絡会議に提起し、分析結果を院内に周知している。
- (2) ブレーカがダウンし、人工呼吸器が停止した事例を踏まえて、ブレーカ容量を増設するとともに、電流監視装置を取り付けた。
- (3) 時間外緊急連絡網を整備。（病院長・医療安全管理部長・GRMに公用携帯を配備）
- (4) AED設置場所に人工呼吸器用レダールポケットマスクを設置。
- (5) 医療安全管理部ホームページからアクセス可能なe-ラーニングのプログラムを開発。
- (6) 妊婦の転落予防のため、産婦人科診察台を新規購入した。
- (7) 薬事委員会に名称が似ている薬剤のジェネリック薬品などへの採用見直しを提言。
- (8) 人工呼吸器の吸入に係る院内ガイドラインの作成、輸血実施手順マニュアルの作成、内視鏡管理マニュアルの作成、シリンジポンプ・輸液ポンプの運用マニュアルの改訂、新規インスリン・採血用具が採用されたことに伴い、インスリン使用ガイド（第4版）の作成。
- (9) 眼鏡・義歯・アクセサリーの紛失防止のため、プラスチックケースとビニール袋を購入し、希望部署に配布。
- (10) 急性肺血栓塞栓症時の院内緊急対応マニュアルとして、診断対応手順、治療対応手順を作成し、また、複数診療科による肺塞栓対応チームを発足させ病院全体として対応する体制とした。
- (11) 医療事故報道を踏まえて、本院での体外受精に係る事故防止対策について検証した。
- (12) 本院での転倒転落事故を減少させるため、転倒・転落事故防止対策対応プロジェクトチームを結成し、事例分析、要因分析、アセスメントスコア等を再評価するとともに、何らかの対応策を策定するため検証中である。
- (13) 医療安全ポケットマニュアル（第2版）を改訂し、病院全職員に配布した。

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容:</p> <p>(1) 基本的な考え方 (2) 取組む組織 (3) 職員研修 (4) 感染症発生状況の報告  (5) 院内感染発生時の対応 (6) 患者に対する当該指針の閲覧  (7) その他の当院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年26回
<p>・ 活動の主な内容:</p> <p>(1) 院内感染対策の検討と推進  (2) 感染防止のための教育と啓発  (3) 感染情報の収集・分析を行い、改善の方策を図る。  (4) 感染対策マニュアルの策定と適宜な見直し  (5) HIV感染対策の強化と充実</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 8回
<p>・ 研修の主な内容:</p> <p>(1) 閉鎖式輸液ライン操作演習  (2) 手指衛生及びPPE着脱演習  (3) 採用者に対する感染防止教育  (4) 院内感染防止対策に係る講演会</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容:</p> <p>(1) 病室にペーパーホルダーや廃棄容器を設置し、手指衛生を推進するための環境整備を図った。  (2) 擦式手指消毒剤の消費状況を院内に周知し、手指衛生の推進を図った。  (3) 感染リンクナースを中心に各部署教育を実施した。  (4) ICT感染対策ラウンド後、感染対策に係る達成状況および注意点をコメント付きの写真などで現場にフィードバックすることにより、感染対策の推進を図っている。  (5) 看護部感染対策委員会による院内ラウンド、ICTラウンドにおいて「日常清掃点検ラウンド」を実施し、環境衛生の推進を図っている。  (6) 抗 MRSA 薬の監視体制の構築</p>	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 初任者看護技術研修（対象：看護師）、薬の基礎知識について：H20.4.3 78名</p> <p>(2) 初任者看護技術研修（対象：看護師）、静脈注射研修Ⅰ、Ⅱ H20.5.29～5.30 65名</p> <p>(3) 初任者看護技術研修（対象：看護師）、静脈注射研修Ⅲ H21.2.9～2.12 65名</p> <p>(4) 医療安全対策実情報告（対象：医師・看護師）インスリンインシデント対策 H20.9.22 185名</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>(1) 総則 (2) 医薬品の採用 (3) 医薬品の購入・管理 (4) 薬剤部における医薬品の管理 (5) 病棟・各部門への医薬品の供給 (6) 外来患者への医薬品使用 (7) 入院患者への医薬品 使用 (8) 麻薬管理 (9) 院内製剤 (10) 他施設との連携 (11) 医療事故防止および発生 時の対応 (12) 教育・研修</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 厚生労働省医薬食品局：医薬品・医療機器等安全性情報</p> <p>(2) 日本製薬団体連合会：Drug Safety Update</p> <p>(3) 各メーカー・卸からの回収情報等の収集</p>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 7回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 人工心肺</p> <p>① 研修名： 人工心肺回路に関する説明会</p> <p>② 対象者： 臨床工学技士</p> <p>③ 研修内容： 回路の長さ等の打ち合わせ</p> <p>④ 開催日： 平成20年 5月23日(金)</p> <p>⑤ 受講者数等： 臨床工学技士 5名</p> <p>(2) 体内式ペースメーカー</p> <p>① 研修名： 体内式ペースメーカー説明会</p> <p>② 対象者： 臨床工学技士</p> <p>③ 研修内容： 取扱説明会</p> <p>④ 開催日： 平成20年 6月7日(土)、8日(日)、8月8日(金)、9月6日(土)、7日(日)</p> <p>⑤ 受講者数等： 臨床工学技士 1名</p> <p>(3) 体外循環器</p> <p>① 研修名： 体外循環セミナー</p> <p>② 対象者： 臨床工学技士</p> <p>③ 研修内容： 人工心肺操作等に関すること</p> <p>④ 開催日： 平成20年 5月24日(土)、25日(日)</p> <p>⑤ 受講者数等： 臨床工学技士 1名</p> <p>(4) 人工呼吸器</p> <p>① 研修名： ニューポート人工呼吸セミナー</p> <p>② 対象者： 臨床工学技士</p> <p>③ 研修内容： 人工呼吸器及び人工呼吸中の加温加湿について</p> <p>④ 開催日： 平成20年10月11日(土)</p> <p>⑤ 受講者数等： 臨床工学技士 2名</p> <p>(5) 高気圧酸素治療室</p> <p>① 研修名： 高気圧酸素治療に関する研修会</p> <p>② 対象者： 病院関係職員</p> <p>③ 研修内容： 高気圧環境の体験</p> <p>④ 開催日： 平成20年 8月26日(火)、9月16日(火)、12月22日(月)、</p> <p>⑤ 受講者数等： 31名</p> <p>(6) シリンジポンプ、輸液ポンプ</p> <p>① 研修名： ME機器セミナー</p> <p>② 対象者： 病院関係職員、大学院生、研究生及び学生</p> <p>③ 研修内容： 安全に使用するための講習会(危険な操作、動作を学ぶ)</p> <p>④ 開催日： 平成20年 6月18日(水)、6月24日(火)</p> <p>⑤ 受講者数等： 165名(18日75名、24日90名)</p> <p>(7) 人工呼吸器</p> <p>① 研修名： シリンジポンプ並列交換講習会</p> <p>② 対象者： 病院関係職員、学生</p> <p>③ 研修内容： シリンジポンプの操作方法及び並列交換の習得</p> <p>④ 開催日： 平成20年10月24日(金)</p> <p>⑤ 受講者数等： 128名</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	

- ・ 計画の策定 (  有 ・ 無 )
- ・ 保守点検の主な内容：

- (1) シリンジポンプ、輸液ポンプ及び経腸栄養ポンプは中央管理による日常点検及び定期点検
- (2) 人工呼吸器の始業点検、使用中点検、終業点検及びメーカーによる定期点検
- (3) 血液浄化装置は始業点検及びメーカーによる定期点検
- (4) 除細動器は点検器具を用いた臨床工学技士による定期点検
- (5) 人工心肺装置及び補助循環装置は始業点検及びメーカーによる定期点検

④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (  有 ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

(1) 情報の収集

- ① 医薬品、医療機器に関する情報提供のホームページの活用
- ② メーカー主催のメンテナンス講習会への参加
- ③ 医療機器に関連する学会への参加
- ④ メーカー担当者からの報告、情報の収集

(2) 情報周知の方法

- ① 定期的な報告（医療機器安全使用に関する検討会の実施）
- ② 文書配付による通知
- ③ メーカー担当者から関連部署への通知の依頼